

2 防犯対策

(1) 空港での防犯対策

空港は、荷物を抱えた旅行者が多く集まる場所であり、犯罪目的で徘徊している者への注意が必要です。全般にスリや置き引き等、窃盗犯罪が多く発生しており、特に、到着直後や出発直前等ばたばたした場面での被害が多いことが特徴です。常に周囲への警戒を怠らないことはもちろん、気軽に日本語で話しかけてくる見知らぬ人にも注意してください。また、近年偽のライドシェアサービスが横行し、利用後に法外な値段を請求されたり、そのまま連れ去られて犯罪に巻き込まれる事件が頻発しておりますので、一般交通機関利用時はドライバーや車種等、確実に確認した上で利用するよう心掛けてください。

ア 窃盗被害の予防

(ア) カート又はポーターを利用して荷物を一度に運ぶ

多数の荷物がある場合には、複数に分けて運ぶよりも、キャリーワゴンやポーター等を利用して一度に運んだ方が、全ての荷物に目が行き届くためスリや置き引き等の被害予防になります。

(イ) チェックイン時に手荷物から目を離さない

できるだけ手元に保持するか若しくは足に挟んだまま手続きを行い、一時たりとも目を離さないことが重要です。

(ウ) セキュリティ・ゲートでは再検査を受けないよう心掛ける

搭乗前の保安検査場では、一旦ゲート式の金属探知器に反応してしまうとボディチェック等の再検査を受けることとなり、先にX線装置を通過した貴重品等から目が離れてしまうため、なるべく1回でパスするように貴金属類を外した上で検査を受けることをお勧めします。また、家族や友人と一緒にいる場合は、互いに協力して行動し、スキを見せないことが防犯のための最良の策となります。

イ 募金・セールス・布教活動

空港内で、募金やセールス、布教活動を行う者が確認されています。意図せぬトラブルに巻き込まれないためにも、極力そのような者との接触は避けて下さい。

旅行先での緊張もあり、日本語で話しかけられるとつい気を許してしまいがちですが、基本的に、そのような活動には関わらない方が賢明です。

ウ 交通機関利用時の注意事項

(ア) タクシー

空港外周に黄色のタクシゾーンが設けられていますので、白タクに騙されないうためにも、必ずタクシゾーンで待機するタクシーを利用するようにしてください。また、中には土地勘のない旅行者から遠回りをして料金を過剰に請求する運転手もいますので、ある程度目的地までの経路を把握した上で利用することをお勧めします。

(イ) ライド・シェア

近年利用者が急激に増加しているライドシェアサービスですが、依頼中のドライバーを装って利用者を乗せ込み、非正規の値段を請求したり、見ず知らずの土地に連れて行き、強姦等を行う事件が頻発しておりますので、利用の際は、下記

注意事項を参考とし、正規のドライバーからのサービスを受けるよう心掛けてください。

「ライドシェアサービス利用時の注意事項」

- ①依頼と実際に到着した車が間違いないか確認する。（車種、色、ライセンスプレート）
- ②ドライバー情報を確認する。（名前を聞く、写真と見比べる）
- ③自ら氏名を名乗らず、ドライバーへ依頼主は誰か確認する。
- ④基本的には後部座席を利用する。
- ⑤可能な限り、家族や友人に旅程を共有し、不測の事態に備える。

(ウ) エアポートシャトル

空港の外周にエアポートシャトルの看板が設置してあるため、そこで待機する係員の指示に従って利用するようにします。事前にシャトルバスを予約していた場合、指定場所で待機し、確実に自分の依頼した会社のシャトルバスを利用するようにしてください。

(2) ホテルでの防犯対策

当地では、一流のホテルにおいても盗難の被害に遭う例が稀ではなく、室内に置いていた貴重品が紛失したという事例は多々あります。

ア チェックイン・アウト時に荷物から目を離さない

フロントでは、手続きに気を取られ、荷物への注意が疎かになりがちです。カウンター上のバッグは手で保持し、足元の荷物は足で挟むなどして、しっかり保持した状態で手続きを行います。

イ セーフティ・ボックスの利用

貴重品はホテルの「貴重品預かり」に預けるか、セーフティ・ボックスに入れるようにします。

ウ エレベーターでの警戒

エレベーター内は密室となるので不審な人物がいる場合は、次のエレベーターを待つなど周囲を警戒します。

エ 客室ドアのチェーン施錠

宿泊する部屋のドアには必ずチェーンをかけ、来訪者の対応は必ずチェーンをかけたまま行います。解錠前にのぞき窓を利用し、来訪者に心当たりがあるか確認します。

オ ロビー付近での警戒

ロビーで待ち合わせ等をしている間に、話しかけたり、コインをばらまいたり、スーツケースを故意に倒して注意をそらし、バッグを置き引きしたり、財布をスリ取る者がいますので、ホテルの中と思って安心せず、貴重品は常に身体から放さないことが重要です。

カ レストランでの警戒

食事中（特にビュフェ・スタイルにおいて料理を取りに行っている間）手荷物を席に残したまま離れることで置き引きに遭う可能性が非常に高くなります。常に手荷物を携行する又は、家族や友人と一緒にいる場合は、相互に席を離れ、スキを見

せないことが重要です。

キ 客室内での貴重品管理

日本とは違い、室内に置いてある現金は、清掃員へのチップと判断される可能性がありますのでご注意ください。

(3) 屋外における防犯対策

ア 強 盗

強盗被害に遭わないためには、夜間の一人歩き、人通りの少ない場所や危険とされる地域に近付くことは意図的に避けることが賢明です。

一方、万が一強盗に遭った場合には、身体の安全を第一に考え、抵抗せずに現金を渡した方がよい場合があります。その際、いきなりポケット内に手を入れて財布を出す素振りをする、興奮状態にある相手は武器を取り出す動作と誤解して、暴行や銃撃を反射的に行う可能性がありますので、現金のある場所を教え、相手に取らせる等、なるべく相手を刺激しないよう注意します。「目立たない」、「用心を怠らない」、「行動を予知されない」の三原則を遵守することが極めて重要です。

イ スリ・置き引き等

写真撮影等で、荷物から数十秒間目を離した間にバッグ等がなくなったというケースが後を絶ちません。最近では、被害者の注意をそらすために道や時間を尋ねる者と、その間にカバンを盗む者というような複数犯による連携犯行も少なくありません。ハリウッド、ディズニーランド、ユニバーサルスタジオ等の観光地、ホテルや空港のロビー、レストラン、レンタカー会社等の受付付近が、盗難多発地域として挙げられます。被害に遭わない、または被害を少なくするためには、時々自分の周辺に目を配る、貴重品は数カ所に分散して所持する、人前で現金を見せない、バッグの留め金は自分の体の方に向ける、危険を感じたら大声を上げるなど、警戒心を持ち続けることが重要です。もし、盗難被害に遭った場合は必ず警察に届け出るとともにレポートの写しを控えておくと、盗難品が見つかった時や保険の請求に役立ちます。不幸にしてパスポートが盗難に遭った時も、同様にレポートを作ってもらい、早急に総領事館において所要の手続きをしてください。

ウ 寸借詐欺

身に危険は及ぼさないまでも金銭的に大きな損害を受ける場合があるので注意が必要です。一般的な手口としては、盗難被害に遭ったので助けてほしいとして有名組織の名刺を差し出した上で相手を信用させ、結局は借りた現金を持ち逃げするといったパターンが多いようですが、中には担保として高級そうな洋服等を預ける代わりに高額な金銭を借用しようとする手の込んだ詐欺師もいるため、原則として見知らぬ相手にはお金を貸さない強い意志が必要です。

(4) 自動車運転時の防犯対策

強引な運転（急な割り込みや後方からハイビームを点滅させる等の威嚇行為等）が起因して暴力事件に到るケースが少なくありません。そのような運転をしないよう自ら自制することはもちろん、もし危険な運転をしている車両がいれば近づかないことが大切です。万一トラブルに巻き込まれた場合には、速やかに警察機関等に助けを求めてください。

また、フリーウェイや夜間の道路上などで立ち往生することのないように日常から車両の点検整備をしっかりとしておくとともに、事故処理等のサポート団体「AAA (American Automobile Association) (日本のJAFに相当：有料)」等に参加しておくといざという時に便利です。

ア 乗車中のドアロック

車外からのひったくりや、信号待ちの間に強盗などに助手席に乗り込まれないように、一般道などでは窓を閉めておくとともに、必ずドアをロックしておくことが大切です。また、信号待ちの間、窓を拭いて金を要求する者がいますが、運転者が承諾して支払いをしようとした時に強盗被害に遭う場合もありますので注意が必要です。

イ 駐車場所の警戒

駐車する場合は周囲の視線や周囲の車の手入れ状況にも注意し、少しでも不安を感じる時は場所を変える用心深さが必要です。

ウ 下車時のドアロック

わずか1、2分でも車を離れる場合は鍵を抜き、全てのドアをロックするよう心がけます。観光地で停車した車のすぐ脇で写真を撮っていたところ、車内に置いていた貴重品をそっくり盗まれた例や、給油所で代金を支払中に車を乗り逃げされた例もあります。また車上荒らしの被害に遭わないためにも、車外から見える場所に貴重品やバッグを置かないことはもちろん、それをトランク等に移す行為自体を見られないことも大切です。なお、警報アラームを付けておくことより防犯効果が高まります。

エ ヒッチハイカー

素性の分からない者に対する安易な同乗許可、もしくは見知らぬ相手の車への同乗は、自ら危険を招いているような行為であり、絶対に避けるべきです。いきなり武器を突きつけられ、金品や車両の盗難被害、更には殺人事件に発展する可能性も否定できません。

オ バンプ&ロブ

当地では、車をわざとぶつけてドライバーが降りた隙に車ごと盗んでしまう「バンプ&ロブ」という窃盗手口もあるため、特に夜間に車をぶつけられても暗い場所では車からすぐに降りず、明るい安全な場所まで車を移動させることが重要です。怪しい人物と交渉するより、保険でカバーしたほうが安全な場合も考えられますので、安心できる保険に加入することも重要です。

カ カー・ジャッキング (車泥棒)

「カー・ジャッキング」とは、持ち主が乗っている車を武器などで脅して奪い取ることで、以前は空車を盗んでいた泥棒も、ハイテク・アラーム・システムの一般化のため、信号で止まっている車や駐車直後の車を狙うようになっています。

この犯罪で特に危ない点は、車が盗まれるだけでなく車の持ち主が暴力的被害に遭うことですが、以下の対策によってこの犯罪の被害者となる機会を減らすことが可能です。

「カー・ジャッキング予防策」

- ①駐車している自分の車に近づく際は、車の近くやあなたの後ろに怪しい人物がいないか周囲を確認する。
- ②車のキーは手にしっかりと握り、すぐ使用できるようにして車に近づく。バッグやポケットにキーを入れたまま車に近づくことは余計な時間を作り、犯罪者に隙を与えることとなります。
- ③塀などで囲まれた場所や地下の駐車場はより一層の警戒が必要です。
- ④停止する際、万一の事態に備えて車を動かせるだけの十分な車間距離を確保する。
- ⑤質問をする素振りの通行人に接近されても窓を開けて応対しない。車両泥棒の騙しの手かもしれません。

近年では、停車してある車両の後方に張り紙を置き、乗車してエンジンをかけた運転手が同張り紙を除去しに車を出たところを盗んで乗り逃げする等、犯人側が仕掛けた罠にはまってしまうケースも報告されています。

もし、武器で脅された場合には無理に抵抗して更に危険な目に遭うよりも、相手に逆らわない方が賢明です。

(5) 住居について

ア 住居の選定

当地への赴任者が最初に直面する問題が居住場所です。社宅や前任者の住宅を引き継ぐ場合は別として、自分で探すときはまず地域の治安をよく考慮する必要があります。一般的に次のような場所や家は避けた方が良いでしょう。

- (ア) 道路にゴミが散らかっており、壁等に落書きが多い地域
- (イ) スーパーマーケットや店が鉄格子等で嚴重に囲まれている地域
- (ウ) 地域に緑が少なく、庭の手入れが悪い家が多い地域
- (エ) 付近のショッピングモール等における客の服装や態度が乱れている地域
- (オ) フリーウェイの出入口に近い地域
- (カ) 表通りから見えない家
- (キ) 玄関周辺に樹木が生い茂っている家
- (ク) 夜間、周辺の照明が十分でない家

また、インターネット掲示板等を通じて探し、個人間でやり取りする際には、騙されていないかよくよく注意して取引を行う必要があります。送金先が国外や州外である、国際送金サービスでの送金を要求する、次から次へ理由をつけて振り込みを要求される場合など、怪しいと思った場合は、その時点で交渉を継続するか再検討してください。

「アパート選定上の注意」

防犯上、アパートは侵入箇所が制限されているという利点がありますが、反面、外から隔離された密室になるという欠点があります。入居にあたっては、地域の治安状況、入居者の状況、ガードマン・セキュリティの有無、玄関・ガレージ等の出入規制要領、各部屋の施錠状況及び介在する不動産業者の信頼性等を確認し、慎重に選定する必要があります。

イ 住居の防犯対策

入居契約をする前に、防犯上の注意点を参考に点検を行い、不十分な場合には、

家主に確実に処置させるとともに、場合によっては警報装置等の取り付け交渉を行うことも、安全な生活をおくる上では必要なことです。

(ア) ドア・窓の確実な施錠

殺人、強盗犯罪の多くは、昼夜を問わず住居への侵入により発生しています。その手口は決まって鍵のかかってないドアや窓からの侵入です。鍵をかけることは防犯の基本ですが、これを疎かにしたために被害に遭う例が多いようです。

建物の外周を門、塀、垣根などに囲まれている場合には、侵入の障害となるため抑止効果が期待できますが、これも門の鍵が施錠されていなければ意味がありません。また建物の玄関、裏口等全ての出入口は日常から施錠するよう心掛け、予算に応じて警報装置を取り付けておくと防犯効果が高まります。また、夜間の対策として屋外、特にドア周辺に屋外灯を設置し、一晩中点灯しておくことも効果的です。

(イ) 緊急連絡先リストの整備

電話は緊急の際、救援を求める手段となります。緊急連絡先リスト（911、所轄警察署、友人等）を作って自宅電話の脇に備え付けておくと同時に、携帯電話にも登録しておくことで咄嗟の対応が可能となります。また個人情報の防護策として、見知らぬ相手から電話を受けた際には、まずは先方がかけた先の名前や電話番号が正しいかを確認しておけば、間違い電話であっても相手に必要以上の情報を与えなくて済みます。もし迷惑電話等でお困りの場合には電話帳に名前を掲載しないサービス（電話会社へ依頼、有料）もありますので必要に応じて利用すると良いでしょう。

(ウ) 良好な近所付き合い

日本のように手土産を持って挨拶に回る習慣はないようですが、隣人に出会った時は努めて挨拶するなど親しくしておき、相互の信頼関係を普段から築いておくことが大切です。

(エ) バケーション・ホールド

長期不在間、新聞及び郵便受けを放置しておくことは、空き巣の絶好のターゲットとなります。隣人に新聞、郵便物の保管管理を依頼するか、郵便局や新聞配達所にバケーション・ホールドを依頼しておきましょう。また、照明を自動的に点灯させるセンサー式やタイマー式に変更することも有効な防犯対策となります。